

標茶町議会 先進地視察

(十月八日・九日)

【視察先】

名寄市立食肉センター

【施設の概要】

広域の公設食肉センターとしての役割を担い、消費者への食肉の安定供給と地域の畜産振興を図ることを目的として、昭和四十一年に開設され、運営は当初から二チロ畜産(株)に委託し、平成十八年度からは指定管理者として管理運営を行っている。平成二十四年に食肉センターに隣接して農村漁村活性化プロジェクト支援交付金を利用して加工処理施設を整備し、あわせて平成二十五年に食肉センター本屋を係留、と殺解体、内臓処理のみに改修した。

加工品は牛肉、ミンチの一次加工のみで、すべて国内消費となっている。

と畜処理頭数は、年間約一万頭で道北を中心に全道より集荷している。なお、加工施設では一万頭では採算が合わず他より枝肉を買い入れ一万三千頭を加工している。と畜から加工まで行うことで維持できている状態である。

【視察先】

岩見沢市精肉センター

【施設の概要】

昭和四十二年に市の直営方式により操業してきた

が、施設の老朽化と事業の赤字経営により昭和六十年には廃止の方向であった。しかし施設利用者からの継続の陳情が行われ、その結果施設利用者自らによる民間の「道央食肉センター」が設立された。当時、と場枠については公営でなければ許可が出なかったことから、市は「道央食肉センター(株)」と施設の維持管理、運営については委託契約が締結され、平成十八年度からは管



理者制度を導入し、現在に至っている。精肉センターは、と畜業務であり製品はすべて枝肉となり、この枝肉は納入した生産者に返却することになるが大方は隣接する「道央食肉センター(株)」の親会社である「スターセントプロセッサ(株)」へ納入され、同社が枝肉を加工して消費者に向けた流通を行っている。

平成二十四年度のと畜処理頭数はすべて豚で約十万七千頭となっており、岩見沢市のほか道内二十六市町村から搬入され、釧路管内からは約一千頭が搬入されている。今後は指定管理者をやめ、完全民営化する予定である。

年度からは管



第三回定例会 議会日志から

七月二日	広報調査特別委員会
七月五日	釧路北部消防事務組合議会第 二回臨時会
七月十日	広報調査特別委員会
七月十二日	広報調査特別委員会
八月十二日	総務経済委員会所管事務調査 議会広報研修会
八月二十日	厚生文教委員会所管事務調査
八月二十八日	釧路北部消防事務組合議会第 二回定例会
八月二十九日	川上郡衛生処理組合議会第二 回定例会
//	
九月六日	議会運営委員会
九月十日 ～十一日	第三回定例会



地域のお話

磯分内酪農センターの耐震化工事のため、早めに開催された
磯分内地区文化祭の様子。(9月14日・15日)



編集後記

平成二十五年度も、半年が過ぎようとするなか第三回定例会が開催され、多くの議案が審議されました。

北海道の交通の動脈であるJR北海道の重大事故・トラブルは、ある意味では北海道ブランドを傷つけてしまう危険性もあると考えます。徹底した原因究明と安全運行を求め、再発防止に努力していただきたいと思えます。

秋も深まるにつれ日没も早くなり、エゾシカの道路への出没も多くなりますので、交通事故には十分注意してください。

「議会だより」は、見やすく解りやすくをモットーに編集しております。

お気付の点がありましたら、ご意見をお寄せください。

(文責 熊谷善行)

標茶町議会アドレス <http://www.town.shibecha.hokkaido.jp/yakuba/gikai/>